

Course number		U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：2020年以後の「人間の条件」を考える		Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Advanced Integrated Studies in Human Survivability Program-Specific Associate Professor,SHINOHARA MASATAKE		
	ILAS Seminar :Thinking "the human condition" after 2020					
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences		Number of credits	2	Number of weekly time blocks	1
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2025・First semester		Quota (Freshman)	15 (10)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors		Days and periods	Tue.5
Classroom	32, Yoshida-South Campus Academic Center Bldg. West Wing				Language of instruction	Japanese and English
Keyword	人間の条件 / 人為と自然 / 相互連関性 / そこにいること					

[Overview and purpose of the course]

2024年の夏も暑かった。外に出るのは大変だったが、この外に出ることが難しいという状況そのものは、2020年以後のコロナウイルスに始まった事態ともいえる。私たちは、エアコンで快適さが保たれた室内にこもってオンラインで人とつながり生活するというスタイルに慣れつつあるのかもしれない。人文科学は人間について考える学問と言えるが、もしも人間が今後この状況で生きることになるのだとしたら、人間が生きているところに関して、つまりは人間がいる場所、人間が身を置く空間、人間にまつわる何かが起こる状況といったことに関して考えつつ、人間を考えることが求められるのではないか。私たちは、自然との安定的な関係のなかにあるのではなく、人間のコントロールを超えた、定まることのない惑星的な条件において存在することになっている。ハンナ・アーレントの著作で言われる「人間の条件」に関する考察を、新たにやり直すことが求められている。そのような世界像を提唱した人文系学者の一人が、ディペッシュ・チャクラバルティである。2009年の「歴史の気候」の発表以降、彼はいくつもの論考を発表し、2021年には『惑星時代における歴史の気候』という著作を刊行する。そこで彼は、「人間と自然の境界区分は成り立たない」「人間は、他の諸々の生命体との関わりの中で、惑星において生息する」「気候変動において問われているのは、生存可能性(habitability)の問題である」といった主張を行うのだが、この主張は、2020年代以降の人文社会科学のあり方を定めたものとして、後々評価されることになるだろう。また、このような議論を行っているのは、チャクラバルティに限らない。ティモシー・モートンの『自然なきエコロジー』、アナ・ツィンの『マツタケ』をはじめとする議論は、2020年以後に人間が生きる状況を考える上で、必須のものになるだろう。このセミナーは、上記の人たちの文献をいくつか選んで読みながら、2020年以後に生きることになる私たちの生存条件を哲学的に考えることを目指す。

[Course objectives]

文献の読解を通じて精読し考えるための基本的な方法を学ぶとともに、現在において、さらには今後の未来において人間が生きることになる世界を理解するための方法に関して、哲学的・人文学的な観点から新たな知見を獲得することを目指す。また、哲学的・人文学的な観点はただ文章で書かれた作品だけでなく音楽や映像といった言葉以前の領域で展開される作品を鑑賞する中で磨かれるものでもあるのでそのようなものの鑑賞力を高めることをも目指す。

[Course schedule and contents]

第1回

ガイダンス 授業の概要、進め方について説明する。

第2回~第4回

2020年以後の「人間の条件」に関して、基本文献を読解し、概要を理解する。

第5回~第14回

チャクラバルティ、モートン、アナ・ティンといった人たちの重要文献を読みつつ概要を理解する。

第15回ふりかえり

[Course requirements]

None

[Evaluation methods and policy]

出席と参加の状況を踏まえた平常点（40点）と学期末レポート（60点）の内容を合わせて総合的に評価する。

[Textbooks]

Instructed during class
授業中に指示する。

[References, etc.]

（References, etc.）

篠原雅武 『人新世の哲学』（人文書院, 2018）ISBN:4409030965

篠原雅武 『「人間以後」の哲学』（講談社, 2020）ISBN:4065207819

ティモシー・モートン 『自然なきエコロジー』（以文社, 2018）ISBN:4753103501

ディペシュ・チャクラバルティ 『一つの惑星、多数の世界』（人文書院, 2024）ISBN:4409031309

アナ・チン 『マツタケ』（みすず書房, 2019）ISBN:4622088312

その他、必要な文献は、授業中に紹介する。

[Study outside of class (preparation and review)]

参加者は、授業中に配布した文献を読んでおくこと。授業でわからないことがでてきたらそれが何かを自分で整理し、それをもとにして次の授業で質問すること。また、授業中には映画や音楽、アートについても話題にするが、それらについても積極的に視聴すること。

ILASセミナー：2020年以後の「人間の条件」を考える(3)

[Other information (office hours, etc.)]

[Essential courses]